

「新人目線」の用語解説

語句よみ

第238号



今回のテーマ **世界から注目される、米国の金融政策**

足元、米国の金融政策を巡る動向に注目が集まっています。世界最大の経済規模を誇る同国の金融政策は、世界の金融市場に大きな影響を及ぼします。今回は「FRB」と「テーパリング」について調べてみました。

日興アセットマネジメントの新人。営業推進部門に配属され、投信や経済について勉強中。

1. FRB(連邦準備制度理事会)

FRB(Federal Reserve Board)とは、米国の中央銀行制度における最高意思決定機関を指し、同国の金融政策をコントロールする立場にあります。FRBが政策運営を行なう上で重視しているのが「物価の安定」と「雇用の最大化」であり、これらは「デュアル・マンドレート(2つの責務)」と言われています。

FRBは、大統領が指名し、上院で承認を受けた7名の理事(議長、副議長を含む)で構成され、FRB議長は世界の基軸通貨である「ドルの番人」と呼ばれています。FRB理事と地区連銀総裁が金融政策に関する決定などを行なう会合が、FOMC(連邦公開市場委員会)です。FOMCは通常、年に8回開催され、参加者のうち、FRB理事7名と、12の地区連銀の総裁のうち5名が議決権を有しており、多数決によって政策の方針などが決定されます。

FRBは、政策金利の水準や、市場へ供給する資金量の調整などを通じて、金融市場の安定化に努めています。景気悪化が懸念される局面では、政策金利を引き下げたり、市場への資金供給量を増加させます。それだけにとどまらず、2008年に起こったリーマンショックの際には、ゼロ金利政策や、3度にわたるQE(Quantitative Easing: 量的緩和)の導入など、経済活性化に向けた異例の施策

ステップアップ

政策金利引き下げなどの金融緩和政策は、景気の下支えにつながる一方、金融機関の収益圧迫や、過度な緩和による資産価格の高騰などの副作用の懸念につながることもあります。



(次のページへ続きます)

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。

を実施しました。また、2020年のコロナショック時にも、国債や住宅ローン担保証券(MBS)の買い入れ額を無制限とするなど、これまでにない規模の金融緩和策が採られました。世界最大の経済規模を誇る米国の金融政策をコントロールするFRBの動向は、他の国・地域の経済にも大きな影響を及ぼすことから、世界中から注目されています。

2. テーパーリング

テーパーリング(tapering)とは、中央銀行の量的緩和策として実施されている、国債など金融資産の買い入れについて、その購入額を徐々に減らしていくことを指します。超緩和的な金融政策の修正(正常化)に向けた動きであり、景気過熱の抑制を目的とする、政策金利の引き上げなどの金融引き締めとは異なります。

過去を振り返ると、2013年には、テーパーリングに起因する金融市場の混乱「テーパータントラム」が起きました。当時のバーナンキFRB議長が、市場の想定よりも早いタイミングでテーパーリングを示唆したことをきっかけに、米長期金利の急騰や、投資資金の引き上げに伴う新興国通貨安など、バーナンキ・ショックと呼ばれる市場の混乱を招きました。

米国では、新型コロナウイルスのワクチン普及などを背景に、経済正常化に向けた動きが拡がりつつあり、これに伴ない、FRBによるテーパーリングの開始時期に対する市場の関心も高まっています。こうした中、パウエルFRB議長は、市場との対話を重視し、かつてのような混乱を生じさせないよう配慮してきました。そして、7月のFOMC議事要旨では、多くの参加者が年内のテーパーリング開始が適当と判断していることが示されたほか、8月27日に開かれた経済シンポジウム(ジャクソンホール会議)で同議長が講演を行ない、同様の見方を示したものの、2013年のバーナンキ・ショックの際に起こった金利急騰などの混乱は今のところみられていません。

実際にテーパーリングが決定されれば、金融市場が動揺をみせる可能性はあるものの、テーパーリングが早期に開始され、資産買入れ縮小ペースが緩やかとなれば、金融環境が過度に引き締められるリスクは抑えられるとの見方もあります。なお、パウエル議長が「テーパーリングと利上げの議論はリンクするものではない」と発言していることなどから、利上げの開始時期は当分先になるとみられています。

世界経済をけん引する米国の金融政策が調整されれば、世界の金融市場に大きなインパクトを与える可能性もあります。FRBの今後の動向から、目が離せませんね。

ステップアップ

8月の米雇用統計で、非農業部門雇用者数の伸びが予想以上に減速したことを受け、9月のFOMCではテーパーリング開始の決定は行なわれず、11月もしくは12月に先送りされるとの見方が市場で拡がりました。



[facebook](#) [twitter](#) で、経済、投資の最新情報をお届けしています。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。